

プロ並みもあり、ハラハラ、ドキドキもあり ベテラン、新人、共に楽しく芸能発表会

吉川区の第5回生涯学習フェスティバル芸能発表会が10月31日、吉川小学校体育館で行われました。日頃の練習の成果をみてもらおうと一生懸命踊り、歌い、演奏する人たちが。その人たちが支え、応援してきた人たちが集い、楽しいひと時を過ごしました。

その日の朝、ある人に「これから芸能発表会です」と言うと、「うちんのも行きました。何か、最前列に出て演奏することになったというので恥ずかしいと言っていました」という言葉が返ってきました。その方のお連れ合いは、大



正琴の演奏で出演、やはり最前列でした。少し緊張気味ではありましたが、眼鏡をかけて丁寧に奏でる姿が印象に残りました。全体としてもまとまりのあるいい演奏でした。

今回、発表者としては初めてと思われる人が何人もおられました。その内のひとりにはKさん、駅伝など長距離ランナーとして頑張ってきた人です。オカリナの演奏グループに入ってから、おそろく初めての発表会なのではないでしょうか、「埴生の宿」「日本昔話」などの懐かしい曲を演奏しました。演奏が終わってまもなく、舞台わきのスペースから軽い拍手をする音が聞こえました。「うまきいっただね」と讃え合っていたのかも知れません。このグループの中には、二組のご夫婦が演奏に参加していました。いいものですね。

ギターサークルの方たちの芸能発表会での演奏も初めてです。3人の女性がトキ色の素敵なシャツと黒いスカートをはいて「スワニー河」

「涙そうそう」を演奏しました。3人の演奏する音のちよつとしたズレのなかに緊張感を感じました。でも、ギターを弾けるなんてうらやましい。これから、練習してどんどんうまくなっていけるのでしょうか。

司会者が最後に、「ハラハラ、ドキドキも一緒にできるのは吉川ならではのものです」と励ましの言葉を言われましたが、まったくそのとおりです。来年の発表会がまた楽しみになりました。

シリーズ 上越市内の橋

第16回 小竹橋

「小竹橋」と書いて「こたけはし」と読みます。市内の南東部、清里区の荒牧と寺脇の間にあります。県道青柳高田線にあり、昔も今も櫛池川を渡る重要な橋です。いまのがっしりした姿からは想像できないでしょうが、かつては吊橋だったそうです。橋長は約34メートルです。1965年（昭和40年）3月竣工。



優先接種対象者は無料にすべき…議員団が新型インフルワクチンで市に申し入れ

新型インフルエンザが市内の小中学校を中心に猛威をふるっています。先月30日、日本共産党議員団は市にワクチンの優先接種対象者の負担を無料にするよう申し入れました。また、国に対しても市として無料化を求めるよう要請しました。

今回の新型インフルエンザは弱毒性とはいえ、大多数の人が免疫を持たない新型であり、感染の拡大を防ぎ重症化などによる健康被害を最小限に抑えることは、個人の責任にゆだねる問題ではなく、社会全体の要請として考えるべきです。

応じた野澤朗健康福祉部長は検討を約束しました。申し入れには公務で参加できなかった平良木議員をのぞく3議員が参加しました。

